

# 介護施設新入所者などを対象にPCR検査拡充 PCR検査などをめぐり総括質疑行われる



11月30日から12月議会が始まりました。市長の提案理由の説明の後、橋本洋一、平良木哲也、宮越馨の3議員が総括質疑に登壇しました。やはり、質疑の注目はPCR検査の拡大と旧今井染め物屋に関する条例でした。

質疑のテーマのうち、新型コロナウイルスウィルス感染症対策として新たに打ち出された「新型コロナウイルス感染症検査助成事業」については、総額2489万円が一般会計補正予算に計上されました。

対象者は①介護保険施設及び障害者福祉施設に新たに入所する人、②介護保険及び障害福祉サービス等を利用する人のうち、県外在住者との接触により感染のおそれがある人です。①につ

いてはPCR検査費用2万2000円の全額を助成、②については、検査費用のうち2万円を助成（残り2000円は自己負担）するといったものです。

日本共産党議員団を代表して質疑した平良木議員は、「新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、当市におけるPCR検査がどのようにあるべきと考えた上での提案か。PCR検査費用の助成対象を介護保険施設及び障害者福祉施設の利用者に限ったのはなぜか」などと質問しました。

市長は、「国が示す方針に基づき実施されるものと考えており、本事業は『感染拡大や重症化を防止する観点から、一定の高齢者や基礎疾患を有する者について、市区町村において本人の希望により検査を行う場合に国が支援する仕組みを設ける』との方針の下、厚生労働省が創設した助成事業を活用して取り組むもの」「対象者を、優先されるべき行政検査の適切な実施や、医療機関における医療提供との整合も考慮し、ひとたび感染が広がると影響が極めて大きくなる介護保険施設、障害者福祉施設の利用者等とした」「検査を利用する人数は、施設へ新たに入所する人については、最近の新規入所者数の実績からひと月当たり50人を、通所サービス等を利用する人については、感染拡大前後における通所サービス等利用者の減少率などを考慮し、ひと月当たり300人を想定している」などと答えていました。

## 新型コロナ禍による米価下落対策を求める陳情不採択

「TPP参加阻止新潟県民共闘会議」が提出していた、「新型コロナ禍による米価下落対策に関する陳情」は2日の農政建設常任委員会では賛成少数で不採択となりました。

同陳情は、①新型コロナウイルスの感染拡大で外食需要が大きく落ち込み、2019年産米の過大な流通在庫が生まれ、そのあおりを受ける形で2020年産米の価格の下落が起きたことから、2019年産米の「過剰在庫」や供給過剰となる2020年産米を備蓄米として追加買い入れすること、②2019年産米「過剰在庫」の保管経費等に対する補助の拡充を行うこと、③主食用米から飼料用米への転換にあたっては、産地交付金などの加算を図り、主食用米並みの所得を生産者に補償することなどを求め、政府関係機関に働きかけてほしいと訴えたものです。

委員会では、「こういうのは支援していかない、上越市農業は衰退する」「いったって合理的な考えに基づく陳情だ」などという賛成意見がありましたが、その一方



で、「米価下落は新型コロナだけが原因ではない。コメ農家だけではなく、野菜農家などバランスのとれた支援をすべきだ」「余剰米は多く、カンフル剂的な対応ではだめだ」などといった意見も出されました。採決の結果、賛成少数で不採択となりました。上越市はコメを主体とした全国でも屈指の稲作地帯です。たいへん残念な結果だと言わなければなりません。

なお、この陳情は14日の本会議で採決が行われ、そこで正式に採択、不採択が決まります。

今回のPCR検査対象の拡大は一歩前進として評価しますが、「医療機関における医療提供との整合」を理由に

できなかった。した医療、介護保険施設従事者などへの検査対象拡大に消極的な姿勢は理解



【タネツケバナ】（再掲）アブラナ科の越年草または1年草。漢字で「種漬花」と書きます。道端や畑などどこでも見られます。背丈は10センチ～30センチ。たいがい、3月～5月に白い花を咲かせます。でも冬を前に咲くこともあります。今年もすでに咲いています。花言葉は「勝利」「情熱」「不屈の心」。写真は12月2日、頸城区北福崎にて撮影。

# はしづめ法一の活動レポート

No.1988 2020.12.6

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第六三五回

### 通院の日

十一月は母を病院へ連れて行った日が三回ありました。母は介護施設に入所していますので、通院の日の母と一緒に時間は、同じ空間で過ごす至福の時間です。

母の通院に要する時間は、介護施設と病院の往復を含め、短くて二時間半、長ければ三時間半かかります。

介護施設で母を車に乗せ、病院へ行って診察してもらおう。終わってから、また施設に戻る。この間に介護施設の人たち、病院のスタッフの人たちなどと接することになります。この三時間前後の時間帯でも様々なエピソードが生まれます。

先日の午後、母を迎えに行った介護施設のこと。玄関先まで母を乗せた車イスを押しに来てスタッフの女性が私に声をかけてくださいました。

「おかあさん、いつも、『ありがとうね』と言って手を合わせてくださるんですよ」

母がわが家でヘルパーさんたちにお世話になっていたときも何度か母の「ありがとうね」を聞いていましたが、施設のスタッフの方からそう言ってもらうと、こちらもうれしくなります。

声をかけてくださったこの女性は大島区の出身だということでした。以前、ゆきぐに森林組合の仕事をしていて、母の実家についてもよく存じっていました。

「英一さんにもお世話になりました」  
そう言われた時、母はニコニコしていました。ひよっとすると、このスタッフとの会話が母にも聞こえたのかも知れません。

母が病院へ行くのは、いくつかの病気の診察、検査があるからです。薬を出してもらうためにも病院へ行かねばなりません。

この日は予約した時間の10分前に病院に到着。受付を済ませ、診察室の前の待合所にいると、看護師さんがやってきて、母の右手指先の一つを小さな医療器具ではさみ、酸素濃度や脈拍数などを調べました。

「はい、調べますよ。痛くないですか」

「痛いー！」

「いつからですか」

「へさだな」

母の受け答えは、ぶっきらぼうに思えるかも知れませんが、実際は声は小さく、方言丸出しです。「へさだな」は「ずいぶん前からです」という意味です。

看護師さんは血圧の測定もしました。その途中のこと、母は看護師さんにまた訊(き)かれました。

「どこが悪いところないですか」

「ないです」

これには笑ってしまいました。確かに頭が痛いわけでも、熱があるわけでもありませんが、いやに自信を持って「ないです」と答えていたからです。

診察室では、担当のお医者さんから体調だけでなく、食事の状況なども訊かれました。診察結果はまずまずでした。

そして、診察が終わって会計の場所へ移動する時のことです。母の前方から歩いてきた若い看護師さんが急にしゃがんで、

「まあ、かわいい」

と言ったのです。

一瞬、何が起きたのかわかりませんが、母はその看護師さんの顔を見た瞬間に笑顔になったのでした。

ここ数年、母は若い女性を見るとうれしくなると、「あんた、きれいでいなくなったすね」などという言葉が自然と出ます。この日は言葉こそ出なかったものの、同じ思いだったのでしょうか。その母の表情を見て、看護師さんが思わず「かわいい」と言ったんですね。

最近、病院への行き帰りの際、母はほとんど何も言いません。でも、この日は違いました。親戚の家のことなどたっぷり語りました。そして話の最後は、また、「とちや、寿司食っていい」でした。

## 個性あふれる作品に感動

### 「アール・ブリュットー日本人と自然」in東海・北陸ブロック

高田のミュゼ雪小町で開催された「アール・ブリュットー日本人と自然」展を11月28日、観てきました。出展者は県内外の20人の絵や写真、造形作品などを時間をかけて鑑賞させていただきました。

よく、「芸術は個性だ」と言われますが、①抜けた髪の毛を集め、結んで作品にする、②自分の顔も他のものと一緒にコピー機をつかって作品にしてみよう、③シンプルな線と構図で絵を何枚も描き、しかも靴に特別なこだわりを持って描き、物語を作る、④30メートルものロール紙に笑顔の人間の行列を描く、などまさに個性あふれる作品ばかりでした。とても感動しました。

私自身がイラストを描くうえでも参考になりました。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月25日(水)	12月2日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.060	0.070
東頸消防署	0.057	0.057
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.050	0.053

# 春よ来い

## 第六三五回

### 通院の日に

十一月は母を病院へ連れて行った日が三回ありました。母は介護施設に入所していますので、通院の日の母と一緒に時間は、同じ空間で過ごす至福の時間です。

母の通院に要する時間は、介護施設と病院の往復を含め、短くて二時間半、長ければ三時間半かかります。

介護施設で母を車に乗せ、病院へ行って診察してもらおう。終わってから、また施設に戻る。この間に介護施設の人たち、病院のスタッフの人たちなどと接することになります。この三時間前後の時間帯でも様々なエピソードが生まれます。

先日の午後、母を迎えに行った介護施設のこと。玄関先まで母を乗せた車イスを押し来たスタッフの女性が私に声をかけてくださいました。

「おかあさん、いつも、『ありがとね』と言って手を合わせてくださるんですよ」

母がわが家でヘルパーさんたちにお世話になってきたときも何度か母の「ありがとね」を聞いていましたが、施設のスタッフの方からそう言ってもらうと、こちらもうれしくなります。

声をかけてくださったこの女性は大島区の出身だということでした。以前、ゆきぐに森林組合の仕事をしていて、母の実家についてもよく存じっていました。

「英一さんにもお世話になりました」

そう言われた時、母はニコニコしていました。ひよっとすると、このスタッフとの会話が母にも聞こえたのかも知れません。

母が病院へ行くのは、いくつかの病気の診察、検査があるからです。薬を出してもらうためにも病院へ行かねばなりません。

この日は予約した時間の10分前に病院に到着。受付を済ませ、診察室の前の待合所にいると、看護師さんがやってきて、母の右手指先の一つを小さな医療器具ではさみ、酸素濃度や脈拍数などを調べました。

「はい、調べますよ。痛くないですか」

「痛い！」

「いつからですか」

「へさだな」

母の受け答えは、ぶっきらぼうに思えるかも知れませんが、実際は声は小さく、方言丸出しです。「へさだな」は「ずいぶん前からです」という意味です。

看護師さんは血圧の測定もしました。その途中でのこと、母は看護師さんにまた訊(き)かれました。

「どこが悪いところないですか」

「ないです」

これには笑ってしまいました。確かに頭が痛いわけでも、熱があるわけでもありませんが、いやに自信を持って「ないです」と答えていたからです。

診察室では、担当のお医者さんから体調だけでなく、食事の状況なども訊かれました。診察結果はまずまずでした。

そして、診察が終わって会計の場所へ移動する時のことです。母の前方から歩いてきた若い看護師さんが急にしゃがんで、

「まあ、かわいい」

と言ったのです。

一瞬、何が起きたのかわかりませんが、母はその看護師さんの顔を見た瞬間に笑顔になったのでした。

ここ数年、母は若い女性を見るとうれしくなると、「あんた、きれいでいなくなったね」などという言葉が自然と出ます。この日は言葉こそ出なかったものの、同じ思いだったのでしょうか。その母の表情を見て、看護師さんが思わず「かわいい」と言ったんですね。

最近、病院への行き帰りの際、母はほとんど何も言いません。でも、この日は違いました。親戚の家のことなどたっぷり語りました。そして話の最後は、また、「とちや、寿司食ってこわい」でした。

## 大島農業実習交流センター再配置、除雪計画等で議論

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月25日(水)	12月2日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.060	0.070
東頸消防署	0.057	0.057
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.050	0.053

大島若者交流会館で11月27日に開催された大島区の出張地域協議会を傍聴してきました。行政側から報告があったのは大島農業実習交流センターの再配置と令和2年度冬期道路交通確保除雪計画の2つです。

前者は農業実習交流センターとしての利用を取りやめ休止し、事務室などの使用は引き続き大島農業振興公社に貸し付ける。ただ施設利用にかかるとの維持管理費は公社の負担とするというものです。委員からは「公社は昨年100万円からの赤字になっている。今回の再配置によって赤字が増えることになるのではないか」などの質問が出ていました。行政側は「公社負担が増えても公社の



運営費を一定額補助していく」等と答えていました。

除雪計画は昨年度とほぼ同じものです。説明を聞いた後、委員からは、「今後、除雪機械のオペレーター確保が難しくなる。業者への支援をどう考えているか」などの質問が出ました。市役所道路課の雪対策室室長を勤めたことのある小林総合事務所長は、「これまでオペレーター育成のための補助を出してきた」などと答えていました。今後の大きな課題の一つですね。